挑　戦

小美玉市立小川南中学校　学校だより
NO．２６　令和3年１１月２９日　発行

教育目標　(み)自ら学び　(な)仲間とともに　(み)未来を切り拓く生徒の育成
キーワード　３つのCha　～　Chance　Challenge　Change　～

人権作文，優秀賞！

理想と現実，そして実現
２年　菊地　心愛

私には，２つ下に弟がいる。学校では人気者で，いつも家族を笑わせてくれる。

弟には障害がある。両足の指がくっついて産まれてきたのだ。私が幼稚園に通っていたころ，弟が手術した。何時間にも及ぶ，大手術だと聞いている。手術の大変さも，両親が泣いて喜ぶ理由も分からなかった私は，弟の足を見て「宇宙人みたい」と言ってしまった。誰も怒らなかったが，今となっては大きな棘となって心に深く刺さっている。退院して歩けるようになったときから，少し弟に気を遣うようになってしまったと思う。一緒に遊ぶとき，できるだけ足を使わない遊びをしたり，歩かせないようにしたり，それが弟にとって一番のことだと思ったのだ。

弟が幼稚園，小学校と上がると「歩き方が変」「みんなと同じじゃない」といじめられてしまうのではないかと心配だった。幸い，誰からもそんなことは言われてないし，いじめられもしなかった。しかし，弟から「特別扱いしないで」と言われた。特別扱い，それは弟にとって差別と同じことだと思う。私と変わらなく生活しているのに，私自身が障害者というレッテルを貼ってしまったせいで「みんなとは違う」と意識してしまったのかもしれない。障害をもっている人たちは，私たちが思っているより弱くない。なぜなら，想像を超える試練を乗り越えてきたのだから。弟の一言で，障害をもっている人に対しての見方が変わった。

私たちの社会には「障害者」という枠がある。差別や偏見をなくそうと呼びかけても，消えないのが現実だ。けれど，同じように人間で同じように生きているのだ。これは，罪を犯した人にも言えることだと思う。犯罪をした人が罪をつぐない，一生懸命に生きようとしても，無意識のうちに「犯罪者」と偏見をもち，差別する。そうした偏見がもたらすものは，再犯だ。

あなたは，罪を犯した人の気持ちを考えたことはありますか？自分のことを分かってくれる人，分かってくれようとした人がいなかったかもしれない。犯罪をしてしまったことを後悔しているかもしれない。障害をかかえる人と同じで，やりたくて，やってしまったわけではないかもしれない。このように考えると，決めつける前に，一度踏み留まり考えることが大事だと思う。もちろん，犯罪に手を染めようとしている人も。

私たちは，いつ自分がまちがった行動をとり「犯罪者」と言われるか分からない。自分には関係ない，と思ってしまうかもしれないが「あの子が憎い」「手に入れたい」と一度は思ったことがあるだろう。塵が積もれば山となる，というように，そのような思いが積もって心に余裕がなくなり、犯罪に手を染めてしまうのだ。犯罪の一番怖いこと，それは，被害者の人生も加害者の人生も，奪われてしまうことだ。

でも，犯罪は防ぐことができる。人は変わることができるのだから。

偏見の目で見るのではなく，一人の人間として人を見ることができる社会に，私は願う。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

菊地さん，受賞おめでとうございました。

野球部・県交流戦出場決定！

１１月３日から行われている中央地区中学校軟式野球交流大会。前回お伝えしたように，１３日（土）に佐野中に４対１で勝利した本校野球部は，２３日（祝）に笠原中と対戦し，７対１で快勝しました。この時点で中央地区ベスト４になり，県交流戦への出場権を獲得しました。

２７日（土）には，準決勝を東海・東海南中合同チームに，３位決定戦を常北中と対戦しましたが惜敗し，第４位という結果になりました。

しかし，中央地区ベスト４は素晴らしく，今までにない成績でした。試合を勝ち進む中で選手の精神面や技術面の成長がみられた大会でもありました。今後の活躍を期待しています。